

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	049220027
法人名	医療法人 清山会
事業所名	ケアホームさくらの杜
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡大河原町金ヶ瀬字薬師 38 (電話) 022-51-4605
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20年 9月 19日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造平家 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	○有(100,000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	2名	要介護2	5名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	名
年齢	平均 85歳	最低 77歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらの杜診療所
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

共生型グループホーム「ケアホームさくらの杜」は同法人の介護老人保健施設・保育施設「こども園」・医療施設「さくらの杜診療所」と同じ敷地内にあり開設は平成18年8月である。建物は木材がふんだんに使われ、地域との交流を見越した「交流スペース」の部屋もあるなど、余裕のある設計である。共生型ならではの事例は、父親と障害をもつ娘さんとの二人暮らしが、父親に認知症の症状がでたため、家族崩壊の危機にあった時、ホームで父娘共々うけいれて、ホームでのケアを受けながら、それまでの生活を継続できたというケースである。(NPO法人県グループホーム協議会の事例報告会で発表予定)このホームの特徴の一つは隣接する保育所の園児との交流である。年若い幼児に絵本を読み聞かすなど、人のために役立っているという意識が生きがいにつながるということを職員は身をもって学んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題の一つ「運営に関する家族の意見」は家族会の開催等について改善され、意見反映に取り組んでいる。相談苦情窓口第三者委員の依頼はまだである。「災害対策」については、地域との関係は緊密になっており、防災についても相互援助の体制作りを期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、職員全員が自分の仕事の内容、スキルについて振り返る機会にするために、2か月前に各人が全項目に記入した。管理者としては当初予想していたより、職員のケアサービスへの理解が深いことを知ることができた。その時点で改善を要すると思われる点については改善を指示している。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議における討議内容は、地区の敬老会やクリーンキャンペーンなどの行事への参加、町の福祉関連の勉強会、社協によるボランティア育成セミナー実習研修などの受け入れについてなどである。今後もメンバーによる災害関連の地域との相互協力の仲介などにも力を発揮していただくことを期待したい。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を設け、年に3回会合をもち、家族からの意見を聞く機会としており、運営推進会議のメンバーとして家族代表も出席している。相談苦情の受付についての第三者委員については、検討中であるが、地域の関係者から選ぶなどして、地域密着の機会としていただきたい。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームの近辺は、新興住宅地として開発途上にあり、若い共働き世帯が増えつつある。町内会に加入しており、ホームの「さくらの杜新聞」は区長を通じて回覧されている。夏祭りでは金ヶ瀬6区の子供会から16人が参加し、母親達も加わって盛況であった。職員8人の内5人が地域の出身である。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人との関わり、街との関わり、自然との関わりを大切にし、一人ひとりの想いに耳をかたむけたい」が法人の理念である。更にグループホーム独自の理念として全職員で検討し、「つながる心、広がる笑顔」を採用し、今年度も継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「つながる心」は共生型グループホームなので、障害を持つ人とのつながりや、併設する託児所の子供達とのかかわりの中で、日常的に活かされている。理念の共有については、管理者による職員との個別面談(年2回)やケアカンファレンスの際に確かめている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの近辺は新興住宅地として開発途上であり、若い共働き世帯が増えつつある。ホームの「さくらの杜新聞」は、区長を通じ回覧している。「夏祭り」では、子供みこしを出し、金ヶ瀬6区の子供会から16人参加し、母親達も加わって成功した。職員8人中5人が地域の出身である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、2か月前に評価票を全職員に渡し記入してもらった。その結果項目によるサービス内容とねらいは、当初管理者が予想していたよりも良く理解していると判断できた。改善を要すると思われる点は、全体会議で検討し、実行している。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は地域代表の他、保育所園長、町担当者、地域包括支援センター(町直営)で構成している。外部評価の結果や地区の敬老会、クリーンキャンペーンやホームの夏祭りなどを議題に双方向で意見を交わしている。又委員には折りにふれ入居者の生活ぶりを見てもらい、意見、感想を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の認知症ケア委員会のメンバーになっていて、地域包括支援センター主催の勉強会には積極的に参加し、実習生の受け入れ施設になっている。町の社会福祉協議会で行なっているボランティアの育成セミナーの実習、研修も行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した時、入居者の健康状態や日ごろの暮らしぶりについてよく伝え、金銭管理については、月毎に確認してもらいサインをもらっている。来訪の困難な家族には電話で連絡をしており、運営推進会議のメンバーとして家族代表も参加している。なお、家族の来訪時に管理者が不在であっても報告の水準が落ちないように注意が必要である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、年に3回会合をもって、家族からの意見を聞く機会としている。相談苦情の受付機関として、町や保健事務所、国保連等を紹介しているが、第三者委員についてはまだない。	○	グループホームとして地域関係者とのつながりも深まってきているので、適切な方に第三者委員をお願いし、重要事項説明書に明記の上、入居者、家族などに利用を呼びかけ、明示もしていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成18年の開設以来離職者はいない。法人内の異動が一例あり、その場合は事前に入居者に紹介し、動揺、リスクに配慮している。離職対策としては、法人全体として職員に対しメンタルヘルスアンケートを実施し、それらを参考に理事長など専門家が対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としては、リーダー、役職員研修があり、ホームとしては研修委員会で、年間計画を立て、毎月研修を実施している。同系列のグループホームで連絡会を作り、認知症に関する勉強会や、事例による話し合いを行なっている。NPO県グループホーム協議会の外部研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	共生型グループホーム管理者研修会の会員であり、これまで富谷町における地域フォーラムで事例発表もしている。10月に予定されているNPO県グループホーム協議会の実践報告会では「家族との連携」と題して、共生型グループホームだから叶えられた事例を発表することとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の調査時に本人と家族の関係を注意深く理解するようにしている。見学で訪問してもらう時は、昼食などを共にし、雰囲気を感じてもらうなど配慮し、一人暮らしの人には、安心感を実感してもらうように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者自身が誰かの役に立っていると意識が、生きがいにつながっている。隣接する保育所の園児のお世話をする入居者の姿を見てると、よく理解できると職員は言う。その中から入居者に調理、掃除をしてもらうことの意義を職員は学びとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式のシートを使って入居者の思いや意向の把握をしている。その人の生活歴、価値観について、家族やケアマネジャーから聞き取り、思いをくみとるように努力している。また思いがけない言動に出会った時は、背景に何があるのかについてチームとして話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「アセスメントのための情報収集シート151(宮城県版:施設)」を採用している。3か月毎に行なうモニタリングに基づき、個別、具体的な短期、長期の目標を定めている。そのためのカンファレンスには家族にも出席の要請をし、出来上がった介護計画は家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の策定以外に、必要に応じ随時計画の見直しをしている。その際にも医師、看護師、家族、ホーム側の出席によるカンファレンスを実施し職員全員と共有している。見直しされた計画には家族の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員が通院介助する機会が多く、受診結果については詳しく家族に状況報告を行っている。敷地内に保育所もあるので、入居者は遊びに出かけている。食材の仕入れには入居者も同行するが、限られた人数なので平等になるように気を付けている。家族の宿泊も歓迎している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医に通院している人もいるが、同系列の診療所と隣接しているので、受診する入居者も多い。付き添いは医師に対する状況説明の事情もあり、職員の対応が多い。通院介助の方法と情報伝達方法についての家族への説明等について重要事項説明書に明記している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医の意見をもとに、家族とは先行きのことについても話し合い、相談はしている。しかし、指針の策定や手順については、これから検討したいとしている。	○	重度化や終末期のケアに関する指針は、本人及び家族の意思確認の取り決め、関係者の範囲(カンファレンスの構成)、医療体制、ホーム職員の教育、研修について文書化することが望ましい。当ホームは看護師を職員として配置し、協力医も隣接する同系列の診療所である。この有利な条件を生かし、方針を確立していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の名前の呼び方にしても、これまでどういう呼ばれ方をしていたかを聞き、その人にふさわしい呼び方をしている。トイレへの誘導などでも本人の誇りを傷つけないように注意をしている。個人情報利用同意書等で利用範囲を明示するなど、プライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の日課はそれぞれであり、花に水をやる方、盆栽の手入れをする方、散歩をしたりする方などがいる。職員もその日の業務にとらわれないフリーの担当者を置き、入居者の希望に沿って個別にやりたいことを手助けしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の準備から後片付けまで行なっている。食材は2日毎に買いだしに行くが、献立に基づき、野菜、果物なども旬と彩りも考えて購入している。職員に栄養士もいるので、随時助言を得ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む入居者には無理強いはないが、「はいれば気持ちいいのに」という思いが相手に通じるようにしている。急に入浴したいと言う人や、夜間を希望する人にも応じられるように努力している。入浴剤の使用や柚子湯などで入浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯(干し、たたみ)や料理、園芸などそれぞれ役割を持っている人が多いのは、ホームの日課にとらわれないフリーの職員を配置するなど工夫しているからと思われる。敷地内の保育所の幼児達に絵本を読み聞かせることが、大きな楽しみと生きがいになっていることは貴重である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ベランダでひなたぼっこをしたり、隣接の保育所の園児の顔を見たくなくて、それが散歩の動機にもなっている。食材の買出し時の外出も馴染みの店となっているので、楽しみの一つである。職員も外出支援については自信を持っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等の施錠は行なっていない。施錠は身体拘束に通じることで入居者の権利侵害であるということを職員全員が認識しており、このことは家族にも話をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人同系列の施設全体としての災害対策総合訓練は年に2回、グループホーム独自の夜間を想定しての訓練も年に2回、計4回実施している。しかし、地域との協力という点では十分とは言えない。	○	防災に対する地域との協力は相互援助であるべきで、地域のためにホームとしての社会的資源をどう役立てることができるかということである。災害時における地域の高齢者に対する支援とか、備蓄に関わることなどについて、運営推進会議を活用して体制作りを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	グループホームの管理者が栄養士の資格を持っている他、スタッフにももう一人いる。蛋白質や野菜、果物によるビタミン等の摂取については、献立作成の段階から考慮している。個々人の食事、水分の摂取量や体重の変化などはきちんと確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明、テレビや職員の会話のトーン、温度、湿度の管理等はいずれも適切であった。臭気や空気のおよみは感じられない。全体として建物に余裕があり、地域の人達との接点として役立ちそうな部屋もあるので、運営推進会議で検討していただきたい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にあるベッドは高さが調整できる電動式である。入居者には馴染みの物、使い慣れたものを持参してくれるように働き掛けている。部屋はそれぞれその人に合わせて個性的であり、安らげる雰囲気作りへの工夫をしている。		